

令和7年度 富士市PTA連絡協議会 合同研修会
分科会会議記録簿

令和 7 年 7 月 1 3 日（日）		会場	吉原第三中学校		参加者数	1 5 名
分科会	テーマ①（小 A）					
司会者	常盤 美里		助言者	鯨津 諭		
記録者	橋村 賢治		サポート	櫻井 新一 岩間 雄一郎		
<p>テーマ</p> <p>PTA 組織のスリム化と実践活動のメリット・デメリット</p>						
会議概要						
1. PTA での活動内容 及び ボランティアの募集状況について						
活動内容・・・朝の見守り、PTA 新聞、かけ込み 110 番のプレート設置、校内清掃、レクリエーション						
父親委員会（七夕の笹取り等）、給食試食会、グラウンドの石取り						
イオンのレシート活動、プール清掃、旅行、広報活動、古紙回収、三世代交流イベント						
5 年生行事の田植え体験の手伝い、運動会のテント張り、お祭り、もちつき						
募集方法・・・まちコミを利用する、各生徒へプリントを配布						
ボランティアを募集するよりも、次回の活動に自発的に参加したくなる雰囲気づくり						
オンライン（まちコミ以外）での募集						
2. PTA スリム化のメリット・デメリット 及び 役員の選出方法						
メリット・・・スリム化して少人数になったので、意思疎通や共有がしやすい						
強制化をなくしたので、PTA に入りやすい						
計画のための会議を無くし当日のみの活動を行う						
部を廃止できた						
親同士が交流しやすい						
選出方法・・・立候補のみ 4 校 立候補＋一本釣り 1 校 立候補＋くじ引き 2 校						
各クラス毎に強制 1 校 学年を指定して立候補 1 校						
アンケート方式（やりたい人・やりたくない人・やってもいい人）1 校						

3. その他

・ 小学校の行事に中学生のボランティアを募っている

→ 行事ごとに 20 名～30 名集まる

若い頃（中学生時代）から地域のボランティアに参加する事を経験させて

将来の候補者を育てている

・ 朝の旗振りはどうのように実施しているか

→ 少し前まで各家庭輪番制による強制が多かったが、PTA による旗振り自体の廃止

及び義務化を廃止しできる方が自由に行う方式にした小学校が多い

輪番制による義務化で行っている学校もある（1 家庭で年間数回程度）

・ PTA 活動はスリム化の流れで色々な行事を縮小傾向であるが、その中で新たに始めたことはあるか

→ 校舎を使った肝試し（かなり人気で参加学年を限定しなければならないほどだった）

PTA によるお祭り（PTA だけでなく地域の方にも協力してもらっている）

令和7年度 富士市PTA連絡協議会 合同研修会

分科会会議記録簿

令和7年7月13日（日）	会場	吉原第三中学校	参加者数	17名
分科会	テーマ①（小B）			
司会者	服部 敦	助言者	堤 幸士	
記録者	矢崎 佑	サポート	田中 亜矢乃 戎谷 茜	
テーマ 「PTA組織のスリム化と実践活動のメリット・デメリット」				
会議概要				
目的：各小学校におけるPTA活動のスリム化の進行状況や課題、保護者の多忙化に伴う現状への対応について、各校の取り組みを共有し、今後のあり方について意見交換を行う。				
内容				
① PTA活動のスリム化の進め方と影響				
・多くの学校で部の統合や専門部の廃止がすすんでおり、必要な活動をボランティアで募る方式への移行が見られる。				
・一方で、役員選出に関しては負担感が強く、「抽選制」や「立候補制」「手上げ方式」など、各校工夫している。				
・今まで行ってきた活動の維持・廃止の議論を行い、それに伴って組織の形の変化を余儀なくされている学校が多くある。				
② PTA活動の削減によるメリット				
・保護者の心理的・時間的負担の軽減				
・必要な活動に集中できる				
・人数が少なるため運営しやすくなる				
PTA活動の削減によるデメリット				
・必要人員の確保が難しくなる				
・子供に対して価値のある活動ができなくなる				
・PTA自体の存在意義に疑問を持つ声が多くなる				

各校のスリム化への取り組み（具体例）
・ 専門部を統合（5⇒3）
・ 専門部をすべて廃止
・ 手上げ方式でイベントごとに人員募集
・ ボランティア制を導入してやれる人がやれる範囲で活動
・ L I N E グループを活用して効率的に人を集める
・ 環境整備活動は学校主体にしてもらい P T A は補助として活動する
・ 旗振り当番の廃止、および町内会への旗振りの依頼
・ 旗振りは、担当者を設けず、学年や町内で日付を指定して行ける人が行く
・ リサイクル活動の縮小（古紙回収、アルミ缶回収）
・ P T A 新聞の廃止、情報の共有はマチコミを使用
・ P T A 役員の方には、何かしらのメリットを与える（運動会での写真撮影場所の優遇、入学式、卒業式での席の確保を優先的にするなど）
・ 人を集める際に「やる人がいない場合、自分がやります」欄を設ける
・ 駆け込み 1 1 0 番の看板確認方法には、手紙、ファックス、電話などを使って負担を減らしている
総括
スリム化で成功している学校は、「やれる時に、やれることを、やれる人がやる」という、柔軟な組織体制を作っている。今後、PTA を継続していくためには、このような価値観を持ち、柔軟な対応力が求められる。
また、P T A 役員に選ばれた場合のメリットがあれば、積極的な参加の可能性が上がるため、
学校側と協議し、保護者にとって少しでもメリットになる何かを提供することが、PTA 継続においても重要な施策となってくる。

令和 7 年度 富士市 PTA 連絡協議会 合同研修会
分科会会議記録簿

令和 7 年 7 月 1 3 日（日）		会場	吉原第三中学校	参加者数	19 名
分科会	テーマ①（中）				
司会者	橋本 康孝		助言者	工藤 大輔	
記録者	中山 清那		サポート	菅原 智志 勝亦 勇太	
テーマ テーマ①「PTA 組織のスリム化と実践活動のメリット・デメリット」					
会議概要					
PTA 組織のスリム化					
・ 全ての専門部をなくし、その都度できる人を募集して行っている。					
・ マチコミを使って PTA 活動の必要・不必要なアンケートをとった。					
・ 役員の負担を減らす為、活動内容を見直し、専門部も必要な部分だけ残した。					
・ 役員がいらないからスリム化にするしかない。					
・ スリム化によって PTA に入らない人が増えた。（新規または継続会員）					
・ スリム化によって活動内容も減り、役員の数も少なくなってよかったけど、現役員から会長選出をする為、負担をかけてしまっている。					
・ 子供が少ない中でも親同士の繋がりが強いので、役員への意識も強い。					
実践活動のメリット・デメリット					
・ ○○中・○○小 PTA という名前を変えて活動。					
・ PTA 活動を楽しくやっていくことで子供たちから親へ伝わっていく。					
・ PTA 活動の見える化として、あいさつ運動を子供たちやまちづくり協議会など地域の人たちが関わることで伝わっている。他の学校では、奉仕作業も地域の人々が参加して行っている。					
・ PTA の活動として、不登校の親御さんの相談や防災への知識などを学べる場所をつくっている。					
（専門家の人を呼んでいる。）					
・ PTA 会員数を確保するために、入会届に「加入する」「加入しない」のほかに「加入するが、役員はやらない」を付け加えた。（加入数が増えた）					

令和7年度 富士市PTA連絡協議会 合同研修会

分科会会議記録簿

令和7年7月13日（日）		会場	吉原第三中学校		参加者数	15名
分科会	テーマ②（小A）					
司会者	金指 祐樹		助言者	藤森 三奈		
記録者	安井 大貴		サポート	山田 拓郎		
テーマ②						
これからのPTA活動での問題点と解決策を模索しよう。						
会議概要						
1 テーマを踏まえ、以下の3つのポイントについて3グループに分かれて意見交換を行う。						
(1) PTA組織の問題点と解決策について						
・ PTAの役員はつらい、大変というイメージを持たれている。役員会を見学できるようにしている学校もあるので、そうした取り組みを行うことで役員の仕事のイメージ転換につながるのではないかな。						
・ つまらないと感じている活動をやめ、活動している人が楽しめるものとする必要がある。						
・ 活動実態に合わせて部の名前を変更することも必要ではないかな。						
・ PTA役員が変更することによりノウハウや課題がうまく引き継がれないケースがあることも問題ではないかな。						
・ PTAの役員を強制的に選出するのではなく、やりたい人がやる形がよい。						
・ こども目線で活動し、こどもに還元できるという視点を強調することにより、PTA活動にやる気のある人を募っていくことができるのではないかな。						
(2) こどもの安全について（登下校の見守りを中心に）						
・ 登校時は保護者が付き添っているケースもあるが、下校時はそうもいかないため、地域の方にお金を支払って見守りをお願いすることも方策としてあるのではないかな。						
・ こども自身が自分の命は自分で守るとうことを理解することも必要。そのための安全教育を学校やPTA、家庭で話をしていくことが大切だと考える。						

- ・ コミュニティスクールの仕組みを活用して、地域ふれあい協力員や地域の見守りサポーターを募り、こどもの見守りをお願いしていくことが有効ではないか。
- ・ 登下校時に見守りをしてくださっている地域の方への感謝を伝えていくことが必要。
- ・ 地域内の危険箇所を明確化し、マチコミメールや回覧板等で共有していくことで、こどもの安全を確保していけるのではないか。

(3) P T Aのイメージの向上（アピール）について何ができるか

- ・ P T Aの役員はつらい、大変というイメージを持たれている。P T Aの活動内容をもっとオープンにすれば会員に行事参加してもらえるようになるのではないか。
- ・ 会員がつまらないと感じることはやめ、会員がやりたいことを、できる範囲で無理なくやることでP T A活動が前向きなイメージになるのではないか。
- ・ P T A行事について、全ての時間でなく、一部の時間でも参加できるような仕組みにしておくことで会員の参加率が向上するのではないか。
- ・ P T A役員自身が活動について後ろ向きではなく前向きな話をしていくことが大切ではないか。

令和 7 年度 富士市 PTA 連絡協議会 合同研修会
分科会会議記録簿

令和 7 年 7 月 1 3 日（日）		会場	吉原第三中学校	参加者数	1 3 名
分科会	テーマ②（小 B）				
司会者	石川 公美		助言者	畔柳 加奈子	
記録者	鈴木 夢子		サポート	望月 里織	
<p>テーマ</p> <p>これからの PTA 活動での問題点と解決策</p>					
会議概要					
各学校の基本の PTA 活動について					
○旗振り、登下校の見守りはどうしているのか					
・各家庭に旗を配り、地区ごとに決められた期間で行う。下校に関しては地域の方が主に見守りしてくれる					
・生活指導部から子ども会へ連絡がいき、基本週初めにブロックごとに当番で行う（旗を回して）					
・集団登校なので旗振りを行っていないが、地区の方や保護者の方が付き添いしていることがある					
↪ 地区ごとの人数に差があり、子ども会が成り立たない地区もある					
また旗が途中でどこにあるのか分からなくなり、上手く回らないこともある					
○かけこみ 110 の家への挨拶はどうしているのか					
・手紙にて郵送(6 月頃までに郵送)					
・集団登校の際に一緒に行く(年に一度)					
↪ 手紙での挨拶状を送る所が増えている					
かけこみ 110 番の家の見直しの時期が難しい					
○環境整備の際のボランティア募集方法は					
・書面にてボランティアを募る					
・ボランティアを募集する際に環境整備の日に流す BGM のリクエストをとっている					
OPTA 総会、理事会の開催の仕方					
・総会は書面決議が多い YouTube の限定配信で行っている所もある					
・理事会は 19 時ごろに役員が集まって行う。参加できない場合 ZOOM で参加可能な所もある					

[illegible]

令和7年度 富士市PTA 連絡協議会 合同研修会

分科会会議記録簿

令和7年7月13日（日）	会場	吉原第三中学校	参加者数	13名
分科会	テーマ③（小A）			
司会者	山崎 昌彦	助言者	窪田 幸恵	
記録者	百瀬 義隆	サポート	渡邊 貴之 大塚 典彦	
テーマ 「PTA だからできる活動について語ろう！」				
会議概要				
司会者）アンケート結果から他校の活動を知りたい方が多いので自己紹介兼ねて自校の活動を教えてください。				
富士川一小）環境整備（年1回土）、ふれあいフェスタ、給食参観、防犯マップ、かけこみ110番				
中央小）奉仕作業（年2回土）、プール清掃、活動チラシ（年3回）、朝交通安全指導、かけこみ110番				
天間小）旗ふり、給食試食会、もち米田植え、餅つき（地域の協力）				
丘小）グランドゴルフ、親子イベント（きも試し、クイズラリー）、奉仕作業、アルミ缶回収				
鷹岡小）きも試し				
岩松北小）プール掃除、体力測定、運動会、奉仕作業				
田子浦小）奉仕作業（平日）、給食試食会、みなと祭り出店、南イオンイベント				
富士一小）地区理事廃止、見守り廃止、PTA新聞（年1回）、かけこみ110番、クリーン作戦（年2回）、ナイトウォーク（お化け屋敷、小5,6）				
富士南小）コロナ後活動減少、きも試し廃止、父親クラブ→ふれあいクラブ（父母）でペットボトルロケット等イベント				
吉永二小）人数少ない（生徒67人）、グラウンドに雑草				
岩松北小）かけこみ110番、校内清掃、給食室建て替えに伴う給食運搬、ボランティア募集困難、給食試食会を検討				
富士二小）役員希望者不足、見守り減少、活動減少、ふたば幼稚園からの流れで父親委員会参加者多数、まちづくり協議会の協力が助かっている。				
————— 休憩を挟み以下自由発言 —————				
富士川一小）PTA 会費でトイレ清掃を業者に依頼しようと試みたが議会から反対された。				
吉永二小）PTA 会費でエアコン清掃を業者に依頼したいができない。おそらく全ての小学校でエアコン内部の清掃ができていないと思う。				
富士一小）遊具一切使用禁止状態。安全面から。				
天間小）まちづくり協議会と共同で防災につながるフェスタ開催。				

岩松北小) 梅まつりに代わるイベントとして、まちづくり協議会と連携してニジマスつかみ取り開催。学校に宿泊してニジマス調理。

富士一小) 夏休み子供の居場所開催。まちセンで絵を描く等。学校では許可が難しい。

天間小) 餅つきは校舎内で蒸す、突く、配る。販売しないから可能。

富士一小) 肝試し、一度は廃止→再開。教頭と主幹の2名のみ協力。

富士二小) 豚汁。防災を兼ねたので開催できた。

富士一小) 道路のグリーンラインを補修。通学路なら PTA 会長から市に依頼すれば OK.

田子浦小) PTA 会費は学校と相談して使用すればより良くなる。

———— 以下 PTA 役員選出方法について ————

富士一小、丘小) ふれあい協力員、CS ボランティアから選出

富士南小) 4 年生の保護者から選出。立候補で埋まらなければならない理由を発表させる。

丘小) 地区役員から選出。

中央小) 4年生の保護者から選出。

富士一小) 地区理事廃止。行事毎立候補。

天間小、田子浦小) くじ引き→良くないという意見多数

令和7年度 富士市PTA 連絡協議会 合同研修会

分科会会議記録簿

令和7年7月13日（日）	会場	吉原第三中学校	参加者数	13名
分科会	テーマ③（小B）			
司会者	渡邊 嘉人	助言者	荒田 久仁子	
記録者	佐野 美帆	サポート	大塚 千尋	渡邊 秀晃
テーマ テーマ③「PTA だからできる活動について語ろう！」				
会議概要				
○今行っている新しい活動の報告				
・ 懇親会モルック(吉原小)				
平日の夜に先生、役員、子供達参加のモルック懇親会をしている				
・ 美化活動 BGM をリクエストで選曲(吉原小)				
PTA 会長が子供達から受けたリクエストの曲をかけながら美化活動をしている。子供達も楽しんでいる。				
・ ナイトウォークの開催(今泉小)				
金曜の夜、15 分程度で周れる 2 コースを用意し、スタンプラリーをしながら電灯を持って親子でまわる。				
・ 防災キャンプ(伝法小)				
町づくり協議会の協力を得て、年に一回一泊2日の防災キャンプを体育館で行っている。				
近隣会社からの寄付でいただいたダンボールを使って各自ダンボールベッドや空間を作り、ご飯は消防士				
協力のもと炊き出しを行ったり短歌や簡易撮トイレを体験。				
・ 種植え収穫やスイカ割り(神戸小)				
近隣農家さんの協力により、とうもろこしの種植えから収穫、収穫後みんなで食べたり、芋掘りや、				
夏はいただいたスイカでスイカ割りをまちセンで。				
・ トークフォークダンス(元吉原小)				
地域の方や、保護者など様々なテーマで話し合うイベントを開催				
・ 工場見学の開催(大淵小)				
PTA 主催の工場見学を近隣の会社にお問い合わせし行っている。試食やお土産もあって好評。				
・ 様々な体験イベント(大淵小)				

令和7年度 富士市PTA 連絡協議会 合同研修会

分科会会議記録簿

令和7年7月13日（日）		会場	吉原第三中学校		参加者数	18名	
分科会	テーマ③（中）						
司会者	板取 浩二			助言者	下東 孝司		
記録者	石川 慎也			サポート	下田 良秀 三枝 秀暁		
テーマ 「PTAだからできる活動について語ろう！」							
会議概要							
■参加者紹介 ・各中学校・小学校からPTA会長、副会長、家庭教育委員、校長などが出席							
・保護者は中学生・小学生を持つ母親が中心							
・自己紹介では、役職や子どもの学年を簡単に述べ、会の雰囲気は終始和やかだった							
■テーマ説明 以下のような論点を軸に意見交換を進める							
・不登校保護者の孤立防止							
・PTAの新しい役割とは？							
・子どもの変化や悩みに寄り添う仕組み							
・学校施設（例：トイレ）などの環境改善							
■富士南中の取り組み：「子育てピアサポートの会」							
・富士南中では今年度から、子育ての悩みを保護者同士で話せる場「子育てピアサポートの会」をスタート							
・月1回、平日午前に校内で開催							
・目的は「共感と傾聴」。専門家による相談ではなく、保護者同士の語り合いを重視							
・初回は6人参加							
・会話は自然と深まり、参加者にとって大きな安心感につながった							
・告知は学校配布のチラシで実施。言葉選びにも配慮し、「不登校」などの限定的な言葉を避け「子育て全般」							
で誘導							
・PTA家庭教育委員が主導、役員が運営をサポート。時間や形式は柔軟に対応し、参加しやすさを優先							
・発起人の家庭教育委員からは、「誰かのために続けたい」「参加ゼロでも意味はある」という強い思いが							
共有された							

■他校の事例と意見交換
●継続性の課題
・過去に似た活動を試みた学校では、「最初は参加者がいても回を重ねるごとに減り、自然消滅した」との報告あり
・「校長がいると相談しづらい」「保護者だけの安心空間が必要」との指摘も
●夜開催の難しさと工夫
・働く保護者への配慮で夜開催を試みた例もあるが、「家庭の負担が増す」「運営者も時間確保が困難」といった課題があった
・代替案として、「早めの告知で予定を調整してもらう」「昼開催でも託児を検討」などの案が挙がった
●岳陽中のウェルビーイング講座
・岳陽中ではオンラインでの講座を実施
・不登校や心の健康に関する話題を扱い、保護者や地域関係者が参加
・PTA単独ではなく、まちづくり協議会などの地域団体と連携
・継続性のためには「仕組み化」が必要との教訓あり
・PTAが主役ではなく、“活動の一部として関わる”スタンスが長続きの鍵
■話題：学校トイレの課題とPTAの役割
・ある中学校から、「トイレ環境が良くない」という具体的な問題提起があった
臭いや清掃状態の悪さに加え、照明が暗く、防犯面にも不安
・生理用品の配置・使用しやすさの観点も保護者から指摘あり
・この話題に対し、参加者から以下の意見が出た：
・子どもが声を上げづらい部分をPTAが代弁できる
・予算や方針は学校側の領域だが、“現場の声”として届けることが大切
・保健委員会や生徒会と連携して、具体的な改善要望を出す仕組みを作ってはどうか
・施設改善は即時解決が難しい課題ではあるが、「子どもの居心地」を左右する大切な要素として共有された
■前半まとめと今後の方向性
・不登校や子育ての悩みを語り合える場づくりは、PTAだからこそ実現できる柔軟でフラットな支援だ
・トイレのように“子どもが直接言いにくいこと”にPTAが声を届ける機能は今後ますます重要
・PTAは「役割」ではなく「活動の意義」に焦点を当て、無理なく続けられる形を模索することが求めら

れている
・「1人でも来るなら続ける」「継続が信頼につながる」という姿勢が参加者の多くで共有された
■PTA活動の現状と課題
・各校におけるPTA活動の実施状況には大きな差があり、多くの学校で「参加者不足」「活動の担い手不足」が深刻な課題となっている
・吉原北中学校では、昨年度より本部役員の選出方法を輪番制から立候補制に変更し、現在は8名で活動中 ただし、参加者が少なく新規活動に踏み出せない状況
・吉原北中学校でも立候補制を導入したが、役員経験者の中に「もうやりたくない」という思いを抱える保護者が多く、新たな担い手が育たない現状がある
・富士川第一中学校では、立候補者が出ず、くじ引きで役員を決定している
・特に小規模校では保護者数自体が減っており、活動を回すだけでも困難との声が多く聞かれた
■PTAに対する保護者の意識と参加動機
保護者のPTA活動への関心は低下傾向にあり、以下のような背景が挙げられた
・自身の生活や仕事を優先する傾向が強く、「子どものため」としてPTA活動に関わる保護者が減少
・役員決定時のプレッシャーや、不透明な業務内容が参加の妨げになっている
・「やらされた感」や負担感が強く、「PTA=面倒で大変」という印象が定着している
・「手伝える範囲でなら」という人はいるが、役員として責任を持つことには抵抗がある
・一方で、奉仕作業や運動会の保護者競技など、単発で楽しい行事には比較的協力が得られているケースも報告された
■活動内容の見直しと簡素化の必要性
・従来のようなPTAの運営はもはや限界との見方もあり、次のような改革の動きが紹介された
・富士南中学校では「やる」「やらない」「協力だけする」の三択制を導入
・役員希望者は減ったが、会員数自体は増加傾向
・役員の負担軽減を目的に、会合回数や業務量を最小限にしている学校もある
・会員向けに「仕事の内容・回数・拘束時間」などの明示が必要という意見が複数挙がった
・また、「子どもと一緒にできる活動」や「楽しさを感じられる内容」への見直しが求められている
■地域連携の重要性と難しさ
・子ども会や婦人会などこれまで地域活動を支えていた団体が消滅・縮小し、PTA単独での活動に限界が

見えている
・ 地域との連携によって、活動の幅を広げたり、学校行事への理解と支援を得ることが可能
・ 一方で地域からは「ＰＴＡ会員が来ない」との不満が出ており、連携のバランスが難しい
・ 松野学園などでは地域協議会との連携が機能しており、今後のモデルケースとなり得るとの指摘もあった
■学校とＰＴＡの距離感
・ 教職員側からは、ＰＴＡを「軽んじてるつもりはない」としつつも、「昔のような一体感」は失われつつあるとの認識も共有された。
・ 教職員の働き方改革やコロナの影響もあり、ＰＴＡと学校の関係性が希薄になっている
・ ＰＴＡ側も「学校が協力を求めてくれたら参加したい」という姿勢の保護者が多い
・ 「ＰＴＡから提案される活動」より「学校から依頼される単発協力」のほうが保護者の参加意欲を高める可能性がある
■今後の方向性
参加者からは、以下のような提言や課題意識が挙げられた
・ 「できる人が、できる時に、できることをやる」柔軟な形の活動へ移行すべき
・ ＰＴＡという名称・制度自体の見直しも必要ではないか
・ 地域・学校・保護者が連携した新たな形の「子ども支援コミュニティ」の構築が必要
・ 活動の意味を保護者が理解し、楽しさや達成感を感じられる工夫が必要
・ また、「子どものために」という本質的な目的を見失わないよう、活動の意義を改めて共有していくことが重要との意見で一致した
■所感
・ 活動の中心には常に「子どもたち」がいる
・ ＰＴＡが団体としてではなく、“子どもと地域をつなぐ一つの方法”として動いていくことが、これからの大きな意義であると再認識された